学校番号	１０７

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	コンピュータ音楽（選択）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「Joy of Music」（教育芸術社）						
副教材等	必要に応じてダウンロード教材またはデータの教材配信を行う。						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、現代の音楽様式・形態ではどのように音楽が作られ、社会と関わっているかを学ぶことができます。西洋音楽を学ぶ生徒において、この授業で学ぶことができる現代の音楽様式・形態の良さや楽しみ、知識を得ることで、より自らの専攻を深めることにつながるでしょう。DTMなどの様々な音楽の形態を知り、コンピュータ音楽の基本的な知識・技能を身に付け、映像と音楽の関係、デジタル音楽とアナログ音楽についての違いなどを学ぶことを通じて、より幅広い視点で音楽を知りましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】基本的な DTM の知識や技術を学び、コンピュータを活用した創作音楽を作成できる。
【思考力、判断力、表現力等】音楽の在り方や音楽の持つ力の可能性について考察するとともに様々なツールを工夫して活用し、創作した作品を演奏することができる。
【学びに向かう力、人間性等】技術の向上や音楽創作に対して積極的に取り組むとともに、それぞれの良さを生かし、理解する中で、自らの専攻する声楽または西洋楽器の表現にも生かすことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・音響学の基礎や音楽プログラミングの基礎を学び、音楽創作表現を行うことができる。 ・楽譜作成ソフトやデスクトップミュージックに関する基礎的な知識・技術について理解し習得している。 【技能】	音楽創作表現について、自ら創造力を工夫して働かせ、知識と技術を活用して具現化するために必要な創意・工夫をこらすことができる。	・デスクトップミュージックについての知識、技能習得に対して積極的に取り組もうとしている。 ・コンピュータ音楽の学習内容や取り組みを自らの専攻する声楽や西洋楽器の表現に生かそうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

＊生徒の実態に合わせて内容が変更になる可能があります。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期		①クラシックの作曲の基礎技法を始め、コード理論など、昨今の音楽業界の広義に渡るニーズに沿ったメロディメイキングとコードワークを学ぶ ・楽譜作成ソフトについて ②音の基礎(音響学の基礎) ・ デジタルとアナログサウンドについて ③サウンドアート・音の表現 ④実験的な音楽創作表現等	a:【知】コードワーク：コードネームの知識の習得。 【技】基礎的なメロディメイキングと活用方法についての技術を身に付ける。 b:音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、クラシック音楽に限定しない音楽の表現内容を解釈したり、表現意図をもって音楽創作をしようとしている。 c:学習内容に関心を持ち、創作活動や自らの表現や演奏活動に生かそうとしている。	作品提出	作品提出 プレゼンテーション	【観察】 各時間の取り組み
後期		⑤様々な音楽ソフトの活用方法を学ぶ:Audacity, Sonic Pi, PurrData...など ⑥サウンド編集・加工 ・録音した音で電子音響作品制作、 ⑦音響合成の基礎(シンセシス) ⑧ 音楽プログラミングの体験	a:【知】様々な音楽ソフトについての知識の習得。 【技】音楽プログラミング等の使用方法について基礎的な扱いができる技術を身に付ける。 b:音楽に関する知識や技能を総合的に働かせ、クラシック音楽に限定しない音楽の表現内容を解釈し、表現意図をもって音楽創作を行い、作品を仕上げようとしている。 c:学習内容に関心を持ち、創作活動や自らの表現や演奏活動に生かそうとしている。	作品提出 作品発表	作品提出 作品発表	毎回の取り組み【観察】 作品発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度